
俺、ワトソン。

洋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺、ワトソン。

【Nコード】

N3159B

【作者名】

洋

【あらすじ】

あの白馬某の愛鷹・ワトソン。『黄昏の館事件』を、彼の視点から語ります。普段タフでクールな彼の胸の内とは！？・・・とか言ってますが、ぶっちゃけギャグです。それ以上でもそれ以下でもありません。あ、それ以下かも（笑）白馬へのツツコミを、妄想多め、暴言多め、テンション高めでお送り致します。イタイ白馬を見るに耐えない方はご注意ください。オチがあまりにもアレなので、何かもう全体的にごめんなさい。

（前書き）

小説に顔文字が含まれています。読むに耐えない方はご注意下さい。

コミックス30巻を手元に置いて、同時進行で読んで頂けると、よりわかりやすいかと思います。では、どうぞ。

みんな、やつほい！！俺はワトソン。

人間じゃないよ。鷹です。

俺の飼い主は、ロンドン帰りの高校生（自称）名探偵・白馬探。
ヤツがロンドンに留学してるときに飼われ始めたんだ。

ところでこれは、そんなヤツと俺が遭遇した、ある事件のお話。
ウチに謎の招待状が届いたんだ。真っ黒なやつ。

封筒には差出人の名前も切手もなかった。不気味だよ。

それを英国に居るときにバアヤから電話で聞いて、急いで帰国。
イギリス

白馬邸のリビングにて。

探「誰だろう、この麗かわしき僕に招待状なんかくれたのは？きっと、
僕と親交を深めたがっているクラスメイトの誰かだろう。ああ、僕
は何て罪深き男なんだ！」

いや、そりゃないって。だってオマエ、友達いねえじゃん。
そんな俺の言葉に気付くはずもなく、ヤツは招待状の封を開いて読
み進めていく。

探「ふむふむ……。『貴殿の英知をたたえ我が晩餐に御招待申し
上げます。神が見捨てし仔の幻影』……。なるほど、そういう
ことですか」

え？何？何一人で納得してんの！？どうせ友達からじゃないくせに、
何でそんなにニヤニヤしてんの！？

俺にも教えてよ！一体どういう意味なの！？ねえってば！！！！

探「ワトソン、急だが『黄昏の館』に行くぞ！」

マジ！？旅行！？やったあ！旅行だ旅行だ旅行だー！！（＊、＊）

おしやれしなきゃ！何着て行こう？

あ、俺、服持ってないや・・・

そんなこんなで（？）バアヤの車に乗り、しゅっぱーっ！！

探「『神が見捨てし仔』とは、旧約聖書の中で神の祝福を受けられなかった山羊^{ヤギ}の子供、つまり子山羊のことです」

探が、運転中のバアヤに説明してる。

探「『幻影』は『ファントム』と解釈すれば良いでしょう。そして、さっきの『子山羊』を英語にしてつなげれば『キッド・ザ・ファントム・シーフ』。つまりこの招待状の差出人は怪盗キッドということですよ」

へえ。そういう意味だったんだ！怪盗キッドだったんだね。

ちゃんと推理出来るじゃん。ちよつと見直したよ。

でもキッドもいい人だよ！晚餐に招待してくれるんだからさ。

だって、きつとすつごい豪華なお屋敷だよ、『黄昏の館』って。

わーい旅行だ旅行だー。ワクワクするぜ！キャッホイ♪

バアヤ「坊っちゃん、『黄昏の館』というのはもしかしてアレでは？」

バアヤが崖の上を指差して言った。
えっ どれどれ！？俺たちがこれから行く超豪邸のパラダイスってのはどれ……………

探「…………まるでドラキュラ屋敷ですね」

怖っ！！

やだやだ行きたくないー！逝きたくないー！！

探もそう思うだろ！？あんな不気味な屋敷なんか行かずに帰ろう！
？ ね？ね！？

探「フッフ…………噂でしか耳にしたことの無かったあの惨劇の現場に、ようやく足を踏み入れるときが来ましたよ。ああ、楽しみだ。
僕の知的興奮が呼び覚まされている…………！フッフ」

えええ ……！？

オマエぶっ飛んでるよ ……Σ（□；）

探「何だワトソン、怖いのかい？大丈夫だよ。日本にドラキュラはいないから」

そーゆー問題じゃねえ ……っ！！！！

重い気分を引きずりつつ、館に到着。

バアヤはそのまま帰っちゃうよ。ああゝバアヤゝ（i□i）
俺ももう帰りたい…………

探「さあワトソン！英国で解いてきた難事件のときのように、僕ら

のコンヴィネーションを見せてやろうじゃないか」

いえ、遠慮します。というかやめてくれ（口）

それから、そばかすのメイドさんに案内されて部屋へ。

探「ほう。ここが僕たちの部屋ですか」

『たち』！？僕『たち』なの！？俺、コイツと同室なの！？（口
；）

そんなのやだよ！！俺は、そろそろ一人部屋が欲しい年頃なんだぞ
！？

そう訴えて翼をバタバタやってるのをさり気なく無視し、探は何
やら部屋をいじっている。

俺はそっちのほうに興味を引かれて、ヤツの側まで飛んでいった。
なるほど。さすが探偵。こういう状況下での部屋のチェックは必須
ってワケね。

と、そのとき！探が持ち上げた枕の下から拳銃が・・・！！

探、それ本物の拳銃だよね！？うわーうわー。やばいじゃん。法律
違反じゃん！

でも英国紳士の探だから、もちろんすぐに警察に持って行くんだよ
ね？

探「フツ・・・面白いじゃありませんか。この僕に、こんな形で挑
戦してくるとは、身の程知らずがいたものです。ま、お情け程度に
持っておいてあげましょう」

こりやだめだ

その場のノリで拳銃をフトコロに忍ばせた馬鹿野郎な探に連れられ、玄関ロビーに。

ちょうど他のお客さんが数人到着したみたいだね。

若いお姉さんと眼鏡の子供、チョビひげの男の人に、ワイルドな男の人。

みんなキッドに呼ばれて来たのかなー？

ん？何やら騒がしい！

大上「なに！？コックが急病で来られなくなった！？話が違っじゃないか！！」

太いおっさんが、メイドさんに怒鳴ってる。

ここは紳士・白馬探の出番だ！それ行け探！！メイドさんを助けてやれっ（＞＜）ノ

・・・って、アレ？行かないの???

ふと探を見上げると、わざとらしく咳払いをしている。

探「この階段の造りはなかなかですね。なあ、ワトソン？」

知らねーよ（-”-）

さてはオマエ、あの貫禄のあるおっさんが怖いんだな？だからメイドさんが責められててもシカトなんだな！？ええ！？そうなんだろ！！

ほらほら、オマエが無意味に階段の手すり眺めてる間に、おっさん

行っちゃったぞ。

情けねーなあ。

しかも他のメンバーで会話が繰り広げられてる。

やーい。探、仲間はずれー（、、）

おお！？何やら下で、手すりに変な液を吹きかけてる女性発見！しかも美人じゃん♪

俺は彼女に気付かれないように気を付けながら、そーっと近くまで飛んで行った。

お姉さん、今度一緒にお茶しない？

探「ルミノール・・・血痕に吹きつけると血液中の活性酸素により酸化され、青紫色の蛍光が放出される・・・」

うお！？探、ここで登場すんのか！？Σ（□）
イトコ取りじゃん！（□□）

探「さすが元検視官、いい物をお持ちで・・・」

槍田「え？鷹！？」

あー。気付かれちゃった。しょうがない、探の腕に戻るか。

探が階段を一段ずつ降りながら歩いてきた。

探「あ、驚かしてすみません・・・英国で僕と行動を共にしていたせいか、血を好むようになってしまったらしくて・・・」

ちげーよ。あの女の人が美人だから近付いただけだよ。

血を好むとか、俺、鷹としてアブナイじゃん。

こっちの立場が悪くなるような言いがかりはつけんでくれ！！

てゆーか槍田さんって29歳なの！？あと一歩で三十路か。

もう手遅れ・・・ゲフンゲフン！

まあいいさ！俺は愛した女なら、ゆりかごから墓場までオツケイだぜ
ぜ仔猫ちゃん（「」）v

そこで探が「知的興奮がどーのこーの」とかニヤけながら言ったあと、急に俺に話題を振ってきた。

探「まあ僕がここを訪れた理由はもう一つありますが・・・そうだよなワトソン！」

え！？そーなの？知らなかった。へえ。

ま、オマエの目的なんてどーでもいいけどね」

場所は変わって、リビング。探と茂木探偵がビリヤードやってます。

探がカシュツと球を打ち、それによって他の球が散らばってポケットに見事にイン。

茂木探偵が、両眉を上げて笑う。

茂木「ホォー。若いの、やるじゃねーか・・・」

確かにね。探はこの手のゲームは強いよね。チェスとかさ。だってコイツ、インドア派という名の引きこもりだもん アウトドアスポーツとかは全然ダメっすよ。

それから一騒動あったんだけど、みんなは晩餐に行っちゃった・
・
おいらはお留守番です。鳥が食卓に居たらテンション下がるもんね
(?) 仕方ない。

あ、晩餐から帰ってきたー！おつかえりー♪
・・・って、えええ！？あの大上っておっさん、殺されちゃったの
！？(□；)
しかも車は全部爆破されて、崖の橋もご臨終！？うそー！！
だから帰ろうって言ったじゃん！これって遭難！？そーなんで・
スベるからやめよう。

あ、でもメイドさんの車が無事なんだ！良かった^^

千間探偵が車のドアを開けながら言った。

千間「じゃあ本当に橋が落とされてるのか見て来ようかねえ・
・

茂木「俺もつき合っぜ・・・」

探「それなら僕も・・・」

小五郎「オレも・・・」

あわね。いっぱい志願者が出ちゃった。

千間「コレコレ。船頭が多いと船が沈むよ・・・」

探「確かに・・・」

探が同意した。

お！探、何かいいこと言うのか！？

探「ファントムシップ 怪盗ならぬ幽霊船になりかねませんね・・・」

イタっ！イタタタタタタタ！！

さっきの俺の『遭難です』より寒いよ、それ！！

ほら、誰も笑えないから軽く流されちゃってるじゃん！！！ドンマ
イ

車の出発後。

探「これで、犯人は千間探偵で決まりですね」

槍田「そうね。わざわざ遠いところの10円玉を取ったのは酸化還元反応を起こさせないため」

探「トリックと一致しますね」

何やら、残った探偵さんたちがひそひそ話してる。何のこと！？

探「巧妙なトリックですね。なあワトソン」

わかんねーよ！（口；）ちゃんと説明してくれ！！

てかオマエ、一回一回鷹に話しかけるのはやめたほうがいいぞ！？

周りの視線が痛いから！！

探「さあワトソン、僕のこの華麗なる頭脳によって、作戦が完成した。これから実行に移すぞ」

訳がわからないまま、探偵さんたちの作戦に付き合わされることになった。

連れて行かれたのはグランドピアノのある部屋。なんか、犯人の間さんをハメるんだって。

探「さあワトソン、作戦開始だ！このピアノに、お前のその自慢の爪で傷をつけてくれたまえ！」

嫌です！！ そんなことしたら、どんな音が出るかだいたい予想出来るもん！

黒板をひっかくみたいなの、あのおぞましい音が出るよ、きっと。俺、絶対やだから！

探「さあ！何をためらってるんだい？早く！」

探は俺の足を掴んで、爪で無理矢理ピアノをひっかかせた！

やーめーてー！音が・・・音があああ（i□i）

×××モザイク×××

ああああああ。あのおぞましい音を自分の爪で出しちゃった・

・
もうお嫁に行けない・・・！———。

探「ワトソン！」

今度は何？（「□」）

探「実は崖下にバアヤの車を待機させてるんだ」

マジ！？やるじゃん！！ハＯハ

探「これから、助けを呼ぶ手紙をそこに届ける」

うんうん。名案。これで助かるね」

・・・アレ？でも、崖下って・・・どうやって崖下まで届けるの？
あ、きつと探がジャンプするんだ！やつと男らしくなってきたな！！

探「ワトソン、頼んだぞ！他の車と見分けが付くように×印が付いてあるから、大丈夫だよな？」

俺が行くのかよっΣ（「□」；）

まあいいか。俺もコイツと居るよりバアヤのところに居たいし。
とにかくコイツから離れたい・・・！

数分後、アंकレットに取り付けられた手紙を携え、俺は崖下に飛び立った。

すべては全員の生命のため・・・ではなくて、ただ単にバアヤが恋しいだけ。

バアヤ！！！！（ i□i ）

その後、探たちは若い女性のハートには酷すぎる（らしい）血みどろの芝居を演じ、見事犯人を捕らえたそうだ。

って、槍田さんも（まだ）若いぞ！？おい探、言葉には気を付けやがれ！！

でもまあ俺が死ぬ気でつけたピアノの傷も役に立ったみたいだし、軽々しくフトコロに入れちゃった銃も使わずに済んで、良かった良かった^^

ちよつとケチャップ臭いけどね

数日後、帰宅した探がお得意の紅茶を飲みながらバアヤと談笑中。

バアヤ「探坊っちゃま、今回はワトソンの活躍でご無事にお戻りになられて、このバアヤ、安心致しました」

うんうん。俺の活躍があったから、ちゃんと帰って来れたんだよ。俺って最高のペットだよ探！！

探「ところでバアヤ、今度新しく猫を飼おうかと思うんですが」

ん？今何て言った？ 猫を飼う？猫って何だ！？猫ひろしか！？猫ひろしは、手なずけるの（多分）難しいだろ！

バアヤ「猫ですか。わたくしは良いと思いますよ」

探「ですよ？良かった、賛成してくれて。ペットが多いのは良い

ことですしね」

ええ！？そっちの猫！？

この俺がいるのに、新しいペットを飼うってこと！？

そっ・・・そんなあつ（i□i）

くそう！探め、俺がこんなに頑張ってるっていうのに新しいヤツに目移りしやがって！！

俺のことなんか、最初から遊んで捨てる気だったんだな！！
ひどい・・・ひどすぎる。とりあえず死ねー

探「痛っ！！ワトソン、どうして噛むんだ！？」

オマエが悪いんじゃない！！

探「あ！さてはお前、僕が新しいペットを飼うことに嫉妬してるんだな？かわいいヤツだ。わかったよ、猫を飼うのはやめにしよう。

ああ、しかしペットにまで妬^やかせてしまうなんて・・・本当に僕は罪な男だ！神はどうして僕にだけ、こんなに魅力を与えたのだろう？世の女性たちを虜^{こいつ}にしたあの光源氏でさえ、きつとこの僕の、世界を超越した魅力には敵わないだろう！ああ、本当に僕は（以下略）

」

・・・・・・・・。（――）

これが、俺と探の日常だ！楽しんでくれたかな？

これでわかったと思うけど、探つてとことんイタイヤツなんだよ！
そつとしといてやってくれ。ちよつとかわいそうな子なんだよ、い
ろんな意味で

え？何でそんなヤツのところに居るんだ、って？

そりゃあ俺もこんなヤツのところから離れたいのは山々だけど、そ
う出来ない理由があるんだよ。

大人の事情ってやつだ。ダメダメ、教えられないって！

鷹は秘密を着飾って美しくなるのよ（ ）

あ、探が呼んでる。

探「おーいワトソン！この罪深き貴公子・白馬探と共に風呂に入ろ
うではないか！！」

勘弁して下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3159b/>

俺、ワトソン。

2010年10月9日17時52分発行